

千葉県協

# 恒例の工場見学会開く

## 見えにくいつなぎ目に注視

千葉県溶接協会（廣田二郎会長）は11月13日、同協会会員など約25人を集めて恒例の工場見学会を開催。千葉県白井市で、建築物の金属内・外装工事を手がける菊川工業の生産拠点・キクカワテクノプラザを訪ねた。

菊川工業は1933年11月に創業。今年で創業85年の節目を迎える。創業以来「メタルアーキテクトキクカワ」を標榜し、東京・台場にあるフジテレビ

のチタン球体、水戸市の高さ1000以上のチタン塔、東京・墨田区の東京スカイツリー展望台の金属パネルなど、著名な建築物の内・外装工事に携わっている。

今回は、同社の先端設備であるファイバーレーザ加工機や摩擦攪拌接合（FSW）装置を中心に見学した。中でも一行が驚いたのは、英・ブルームバーグ欧州本社ビルの螺旋階段に使われたパネル

の試作品。最大で幅2600ミリ、高さ2731ミリのブロンズ製パネルで「つなぎ目のない」意匠を目指し、ファイバーレーザやFSWなど同社の持つ接合技術を駆使して製作。

「レーザ溶接よりもつなぎ目が見えにくい」ため、パネル表面部分の接合にはFSWを採用した」などの説明に対し、一行はパネル表面を確認。「確かに、接合部がわからない」と感嘆の声を挙げた。

また、ファイバーレーザによるステンレス鋼の溶接とFSWによる純銅の接合の実演も

見学。それぞれサンプル加工品を手にとったり、説明員に質問するなど、見学者から高い関心が寄せられた。



FSWを見学する一行① キクカワテクノプラザ前での記念撮影②



また、ファイバーレーザによるステンレス鋼の溶接とFSWによる純銅の接合の実演も

見学。それぞれサンプル加工品を手にとったり、説明員に質問するなど、見学者から高い関心が寄せられた。